



事務所 伊那市西町5016-2 Tel(72)0077 例会日 毎週木曜日 例会場 くぬぎの杜 Tel(78)1121
 会長 立石 誠 幹事 平出吉範 会報委員長 宮下金俊 第2809回例会 2018.1.18 No.1472



ロータリー:
変化をもたらす

2017-18年度RIテーマ

ROTARY :
MAKING A
DIFFERENCE

ソング 君が代 奉仕の理想

四つのテスト 宮下光一・職業・社会奉仕委員長

会長談話

16日伊那商工会議所の議員新年会に出席してきました。その席上で川上会頭から5人の方に、伊那まつり60周年に合わせて感謝状贈呈がありました。お礼の言葉を原ます美さんがしており、花火の際のアナウンスはこの声だと判りました。実に楽しい新年会でした。また昨日、春日街道にて交通事故が発生しており、1台の軽自動車に田に落ちていました。上農高校の裏道を走行していた際に、カーブの処でスリップと横滑りしましたが、交通事故にならずに胸をなで下ろしたところです。予報では今週末から大寒気団が押し寄せるとの事で、会員皆様が元気に例会へ出席されることを祈念します。



誕生祝 鈴木多門・立石 誠・小河節郎

結婚記念日祝 三澤清美・宮下光一・中川博司・都築透・竹腰哲夫・小松献臣

**在籍祝**

熊谷勝昌(26)
藤澤秀敬(23)
宮下金俊(23)
竹腰哲夫(23)
平出吉範(11)
高田 充(3)
本田敏和(1)



幹事報告 別紙をご覧ください。

理事会報告 別紙をご覧ください。

委員会報告 ○伊那ロータリー顕彰審査委員会報告

立石 誠委員長

第39回伊那ロータリー顕彰受賞者は宮田克思様
立石委員長より活動内容、顕彰理由、顕彰の言葉が発表された。

○1月号「友」の紹介 橋爪利行副会長

横組みP3 RI会長メッセージ 多様性はロータリーの強み。若く有能な会員と女性会員の増強が必要。

P7~15 職業奉仕月間に因んで“ロータリアン職業奉仕を語る”と題して、職業奉仕を理解するうえで参考になる記事が満載。

P16~21 ロータリー地域社会共同体(RCC)の活動事例の紹介。

P21~23 第46回ロータリー研究会レポート

P34~35 地区大会の略報 P35に第2600地区が掲載。
縦組みP4~8 第2580地区の地区協議会における消防防災危機管理アドバイザー サニー神谷氏による企業人のための危機管理の講演要旨。

P19 卓話の泉 男性ホルモンの話

P22 ロータリーアットワーク 東日本大震災の被災高校生吉田昂城君の夢が叶った感動の物語。

出席報告 会員数58名 内出席免除20名 長欠2名 出席者30名 事前メーキャップ3名 出席率67.34% 前々回100%変更なし。

ニコニコボックス

立石 誠 1/16 伊那商工会議所議員新年会に出席して来ました。

誕生祝ありがとうございます。次は大台です。
酒向邦明 本日は、卓話をさせていただきます。宜しくお願いします。

中山一郎 年末年始暴飲暴食を避けプチ断食をして2kg減量出来ましたが、各種新年会で目下リバウンド中です。

川合 博 昼の例会を御無沙汰しておりました。

この間に伊那中央病院の北棟が完成しました。
在籍祝 藤澤秀敬・平出吉範・宮下金俊・川合 博
年末家族会ビンゴ当選 松下正博・宮下金俊・中
村和之

ラッキー賞 下枝正一・山田 益・中山一郎・小
林旬子・中村和之・向山賢悟・神山公秀



会員卓話 酒向邦明会員



演題一「銀行員のよもやま話」一

私は1964年の東京オリンピックの年に岐阜県美濃加茂市で3兄弟の末っ子として生まれました。祖父は専業農家、父は小学校の教員です。田舎ですので、小さい頃には自宅でお蚕さんと一緒に寝ていましたし、田植えや稲刈りは親類総出の手作業で、年末の餅つきは石臼と杵で30臼ぐらいついて、おじやお婆の家に配っていました。父の兄弟は9人いましたので、盆と正月にはおじ・お婆夫婦と子供が2~3人やってきて宴会をし、1~2泊泊まっっていくもんですから、自宅には40人近くがいることとなります。教員の稼ぎで、盆正月の本家のもてなしをやり繰り返す母の苦労は大変だったと思います。

地元の公立高校を卒業後、横浜の大学へ進学し、バブル景気の就職戦線が大売り手市場の時に、今は合併でなくなってしまった都市銀行の東京銀行に1987年に就職いたしました。最初の配属は、東京の丸の内支店、その後、本部の資本市場第一部、大阪支店と経験して、念願の海外勤務の辞令をいただき、カナダのトロント市にあるカナダ東京銀行に赴任することになりました。

さて、銀行員となって学んだこと中から、カナダ東銀の頭取だった足立さん(仮称)のことをお話しします。

バブル経済がはじけ、平成不況が深刻さを増す中で、1995年に三菱銀行と東京銀行が都市銀行の中でいち早く合併を発表いたしました。国内金融に強い三菱と海外金融に強い東銀の合併は当時よい評価をいただいたようですが、職員にとっては異なる文化の組織を一つにしていく産みの苦しみは大変でした。当時私は31歳で仕事にやりがいを感じながら取り組んでいましたが、社員2万人の三菱に社員4千人の東銀が呑み込まれ

た後の姿に漠然と不安を感じ、また、数年ごとに全国を転勤で転々としていく根無し草のようなサラリーマン生活を変え、基点を定めた生活をしていきたいと思うようになり、入社10年弱たったころですが、退職をすることにいたしました。

大学の親しい友人が務めていた八十二銀行に中途採用面接をお願いして、運よく内定をもらうことができました。これが八十二に入ったきっかけです。

採用内定を手にして、トロントへ戻り、拠点長である足立頭取に退職するつもりであることを打ち明けました。足立さんは怒ることもなく、また強く引き止めることもなく、誠に自然に私の申し出を聞き入れてくださりました。

そんなある日、足立頭取が私に「八十二銀行の人事部へ紹介状を書いて送っておいたからな」といわれました。私は「えっ？」という感じで耳を疑いましたが、自己都合で退職して組織を去っていく部下のために、就職先へ私の人となりを書いた紹介状を書いて下さるとは、本当にビックリすると共に、器の大きな人だなと感じました。

そうこうして、1997年2月に八十二へ入社し、長野県内での勤務を開始しました。足立さんは私より22歳年上でしたので、カナダ東銀頭取職を最後に三菱東京銀行を退職されましたが、退職後も奥様と共にトロントに残っておられました。それから、何年かして足立さんから手紙が届きました。最愛の妻が心不全で亡くなったとの知らせでした。

奥様に先立たれた足立さんは、その後帰国し、千葉県浦安市の自宅に一人でもどってきました。今から7年前ぐらいに手紙をいただいた時、「妻がなくなってからも元気に暮らしてはいるが、最近、目がみえなくなってきてね」と書いてありました。そんな足立さんから今年も年賀状が届きました。

私は社会人になって32年目になりますが、職場で面倒見ていただいた大勢の上司に恵まれてここまで成長することができました。振り返ってみる限り、嫌いな上司は一人もいません。これは本当に幸せな人生だと感じています。

年を重ね今は大勢の職員を預かる立場となりました。最近は苦勞して入社したのに、あっさりと退職してしまう若者が増えておりますし、メンタル疾患に苦しむ職員の姿を幾度も見て参りました。また仕事もうまくいかなくて成績があがらない職員もいます。

様々な悩みを抱える者、或るいは、目標や夢の実現に向かって努力している者、人それぞれ様々な事柄をかかえながら仕事と向き合っている職員の力に少しでもなれるよう、過去にお仕えた上司の姿を参考にしながら、自分の職責を果たして参りたいと思います。